

広域化による計画的な補修・更新の体制整備

平地農業地域

【地区概要】

取組面積 388.2 ha
(田384.9ha・畑3.3 ha)
資源量 開水路 68.0 km
パイプライン 34.9 km
農道 26.9 km

主な構成員

農業者・自治会・土地改良区

交付金 約28.5百万円 (H29)

農地維持支払

資源向上支払 (共同、長寿命化)

もんじゅのうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうてい

文殊農地・水・環境保全管理協定 (福井県福井市)

- ❖ 本組織は、福井市南部に位置する地域にあり、11集落が参加する広域組織である。
- ❖ 地域内の農業用施設は、造成後30年以上が経過し、用水路を中心として老朽化が進行し、漏水・不同沈下・水路法面の崩壊等が発生し、営農活動に支障をきたしていることから、施設の補修・更新を地域一体となり進めている。
- ❖ 施設の補修・更新にあたっては、策定した地域資源保全プランに基づき、運営委員会が施工箇所の調整・整備内容に応じた自主施工／委託の選別を行う等、一元的に計画的な活動を実施し、効率的な施設の補修・更新が図られている。

地域の状況

- ❖ 地区内の水路は、造成後30年以上が経過し、老朽化が進行。
- ❖ 用水路は、破損部からの漏水や不同沈下、排水路は、アーム柵渠の破損による法面崩壊や背面土の吸い出しが発生し、維持管理負担の増加が営農活動を阻害。



既設水路の老朽化の状況

取組内容

【地域資源保全管理プランの策定】

- ・計画的な補修・更新のため、H24年度に策定
- ・施設毎の機能診断結果に基づく補修内容実施年度、概算事業費を明確化
- また、資金計画や関係土地改良区との連携等の実施体制も取り纏め。

【自主施工の実施】

水路の目地詰めなどの簡易な補修は、自主施工により実施。【コスト削減】



二次製品による水路の敷設

自主施工による目地補修



取組の効果

【補修計画の円滑化】

地域資源保全プランの策定により、集落境界箇所の路線の連続整備、補修・更新箇所の選択と集中等の集落間の調整が円滑化。

【施工期間の短縮】

1路線あたりの施工期間 = 2ヶ年
単集落で行う場合 = 3ヶ年 (試算値)

活動組織の広域化で、効果が早期発現

【自主施工の実施状況】

参加人数
H26年度：146名 (7集落/11集落)

補修技術を持つ構成員が他集落の支援や技術指導を実施

これにより、地域全域で、自主施工の実施が可能となった。

また、地域全体の補修技術が向上した。

取組面積 31.0 ha
(田31.0 ha)

資源量 開水路 6.4 km
農道 4.7 km

主な構成員
農業者・自治会・子供会・壮年会

交付金 約2.6百万円 (H29)
農地維持支払
資源向上支払 (共同、長寿命化)

しもなか ちいき ほぜんたい

下中地域保全隊 (福井県福井市)

- ◆ 当組織は、福井市東部に位置する市外近郊の混住化地域であり、昭和40年代にほ場整備を実施し、集落内農用地の利用集積により、平成10年度に農地組合法人を設立。土作りを重視し、米の品質確保とともに、麦・大豆等の原種栽培に取り組んでいる。
- ◆ 平成19年度から本制度に取組み、農業者以外を含めた地域参加型の体制を実現。水路・農道等の維持管理に係る担い手の負担軽減が図れ、原種栽培の時間拡大・高品質化が実現。
- ◆ 今後は、米・原種栽培の持続的な品質確保や特別栽培米の作付け等、地域農業の更なる発展を目指している。

地域の状況

- ◆ 地域内の基盤は、昭和40年代の基盤整備により区画整理・条件整備が図られた。
- ◆ 平成10年度に農事組合法人を設立。集落の全農地を対象に営農を実施。
- ◆ 法人は、土作りを重視し、麦・大豆等の原種栽培を実施。(県内で4指定地)
- ◆ しかしながら、水路の老朽化・漏水による転作作物への湿害の影響や、農業者の高齢化・農業者以外の増加等による水路・農道等の維持管理の負担増大が課題となり、平成19年度から本制度に取組む。



大型機械による収穫作業

取組内容

- ◆ 本制度を活用し、水路・農道等の泥上げや草刈り、老朽化施設の補修等を、農業者以外を含めた共同活動で実施。これにより農事組合法人の負担軽減と高品質の米・転作作物の生産を実現。
- ◆ 農業者以外は、生活排水による地域環境への負荷の実態を理解し、水路等の清掃活動等に協力的に参加。農業者以外の参加により、効率的な共同活動を実施。



農業者以外を含め共同活動に実施



きめ細やかな施設管理



市街地近郊での水路の清掃活動

取組の効果

- ◆ 水路等の泥上げや草刈り、補修等を共同活動で取組んだことにより、水路の漏水による転作作物の湿害が防止され、農事組合法人の水路等に係る維持管理労力が削減。

労力削減量：23時間/ha

- ◆ 農事組合法人は、土作りに更なる労力を投入することが可能となり、米の品質確保とともに、麦・大豆の高品質な原種生産を核とし、安定的経営と新たな事業展開を目指している。

〔参考〕土作りによる大麦の収量比較
一般：500kg/10a ⇒ 下中産：580kg/10a
〔適正な草刈り等による米等級の減収防止〕
A等級の持続：350万円/年 (純利益の試算)

～土作りへのこだわり～

20年前から継続しており、収量増や品質確保に不可欠。“下中産”として市場評価も高く、コンテストでの連続受賞などこれからも信念を持ち進めたい。

「けなるい（うらやましい）町徳光」を目指して美化活動を展開

とくみつちょう しゅうらくしげんぼぜんたい

徳光町集落資源保全隊（福井県福井市）

平地農業地域

- ❖ 当地区では、混住化の進展等により、農業者のみで地域資源を継続的に守っていくことが困難となってきた。
- ❖ 自治体と一体となり、景観保全のための植栽活動やゴミ対策の徹底、地区内美化運動等の共同活動を通じた集落機能の活性化を目指している。
- ❖ 「けなるい町徳光」をキャッチフレーズに、「美しい環境をどのように守っていくか」という課題について、集落内で話し合い、身近な活動から始めることにした。地域内美化運動の一環として、地域住民が集落内水路に竹プランターによる植栽活動を実施。さらに、水路法面のカバープランツとしてシバザクラを植栽する活動へと発展。

【地区概要】

取組面積 71.7ha（田71.7ha）

資源量 開水路 22.2km

農道 7.4km

主な構成員

農業者、自治会、農家組合、
子供会、水土里ネット、
親水施設整備事業委員会

交付金 約6.5百万円（H29）

農地維持支払

資源向上支払（共同、長寿命化）

地域ぐるみの資源保全活動



幹線水路の草刈



幹線水路の清掃



地域内美化運動

身近な活動からの取組

—手作り竹プランターの植栽—



❖ 地区内の竹林から達した竹でプランターを制作し水路に設置する活動



❖ 活動を続けて5年目には、地区内のプランターは55個から95個に増加。住宅近辺の活動ということもあり、農家・非農家が一体となり取り組んでいる。

活動の取組拡大に向けて

—シバザクラの植栽—



地区内でも一番目立つ水路沿いにシバザクラを植栽。



- ❖ 景観形成に加え畦の草刈り作業の省力化にもつながることから、専門家からの助言も受け、防草シートを併用したシバザクラの植栽を実施。
- ❖ 防草シートの選定に当たっては、各地をまわり、スギナやチガヤに対する耐久性のあるシートを選定。
- ❖ 「けなるい（うらやましい）町徳光」をキャッチフレーズに、取組拡大に向けて活動を実施している。

取組面積 96.3ha
(田 10.0ha・畑 86.3ha)

資源量 開水路 11.3km
農道 8.7km

主な構成員

農業者、非農業者、自治会、老人会
農家組長会、女性部、子供会

交付金 約3百万円 (H29)
農地維持支払
資源向上支払 (共同)

よのづ のうちをまもるかい

米納津農地を守る会 (福井県坂井市)

- ❖ 福井県北部の三里浜砂丘地に位置し、畑地帯総合整備事業により整備された畑で、施設野菜や露地野菜等が栽培されている。
- ❖ 砂丘地であることから、水路等への飛砂対策が地域の課題であり、水路の泥上げ等について、多面的機能支払交付金を活用して取り組んでいる。
- ❖ また、本地区においては、農地の表土の飛散や作物の風害の緩和のため、防風林の存在が重要であり、ほ場に隣接する防風林の管理についても本交付金を活用している。

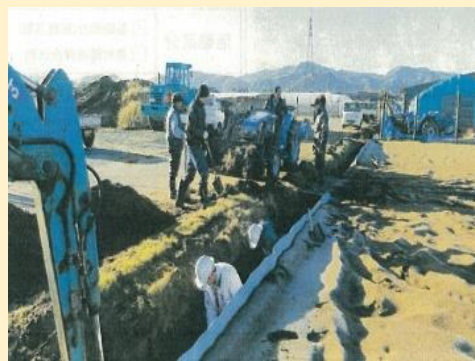
地域の状況



砂丘地の様子

- ❖ 砂丘地であることから、らっきょう、大根、メロン、スイカ、かんしょ等の水はけが良く砂地に適した作物が栽培。
- ❖ 砂地であることから、農地の風食を守る防風林は、地域の重要な施設となっているが、近年、松食い虫による「マツ枯れ」の被害が増加。

取組内容



水路の泥上げ

- ❖ 水路や農道側溝に、砂丘地からの飛砂が堆積し、水路の通水機能が低下。
- ❖ このため、多面的機能支払交付金を活用し、地域共同の活動により、水路の泥上げを実施。



防風林の保全管理

- ❖ ほ場に隣接する防風林について、多面的機能支払交付金を活用し、枝払いや下草刈り等を実施。
- ❖ また、これら防風林への松食い虫による被害を軽減するため、被害木の調査、伐採、搬出、焼却、防除薬散布等を実施。

担い手の負担軽減による構造改革の後押し

平地農業地域

【地区概要】

取組面積 262.5 ha

(田262.5 ha)

資源量	開水路	15.7 km
	パイプライン	27.2 km
	農道	14.5 km
	ため池	6箇所

主な構成員

農業者・自治会・生産組合
 農家組合・小学校・土地改良区
 交付金 約23.6百万円 (H29)
 農地維持支払
 資源向上支払 (共同、長寿命化)

あばんせ いぬいかわ の かんきょう を よくするかい

アバンセ乾側の環境を良くする会 (福井県大野市)

- ❖ 本活動組織は、大野市北西部に位置し、10集落で構成されている。昭和38年度から種子粃の生産に取り組んでいる地域であり、平成元年から大区画ほ場整備を実施し、全農地を担い手に利用集積。平成12年度に8集落の農地をカバーする農事組合法人を設立。(種子粃の県内シェアは7割)
- ❖ 平成19年度から本制度に取組み、水路・農道等の保全管理を10集落の共同活動で実施する体制としたことで、農事組合法人の保全管理に対する負担軽減による種子粃の品質管理に労力を集中することが可能となった。今後は、経営規模の拡大を進めるとともに、米粉パンの販売等6次産業の幅広い事業展開を行い、地域農業の更なる発展を目指している。

地域の状況

- ❖ 本地域は、種子粃の産地。平成元年から8集落で大区画ほ場整備を実施し、農地の汎用化と担い手への利用集積を図り、平成12年度に8集落の農地をカバーする農事組合法人を設立。
- ❖ しかし、水路・農道等の維持管理に担い手への負担が大きく、種子粃の品質管理に十分な労力を投入することが困難な状況となっていた。
- ❖ このため、平成19年度から本制度を活用し、10集落の共同活動による水路・農道等の維持管理を行うことで、担い手への支援を行う体制とした。



取組内容

- ❖ 水路・農道等の草刈り・泥上げ・施設の点検等の維持管理は、10集落の共同活動により実施することで、農事組合法人はこれらの作業の負担軽減が図られ、9集落の農地244haを集積するとともに、地区外の作業委託を含め経営規模を拡大。
- ❖ 更に、地域農業の将来について話し合いを進めており、未加入集落の農地20haも経営面積に取込むことを検討。
- ❖ また、農業者以外の共同活動への参加意欲を高めるため、地域一体となったシバヅクラの植栽やホタルの再生等にも取組む。



ため池法面の草刈り



獣害柵の適正管理

取組の効果

- ❖ 10集落の共同活動による水路・農道など草刈り・泥上げ等により、農事組合法人がこれらの維持管理に費やす労力・コストが削減され、併せて受託面積を拡大。
 - 労力削減量 3.4時間/ha (試算)
 - コスト削減量 4.4万円/ha (試算)
 - 作業受託の平均収入
 - H15-18年度：750万円/年 (平均)
 - H19-26年度：1,500万円/年 (平均)
- ❖ 今後、更に周辺集落の農地を取込み規模拡大を進め効率的な農業を展開し、種子粃生産を核としつつ、米粉パン販売等の6次産業の幅広い事業展開を目指す。



大型機械による作業受託の拡大

地域一体となった幅広い取組

平地農業地域

【地区概要】

取組面積 756.55ha
 (田 741.68ha・畑 14.87ha)
 資源量 開水路 113.3km
 パイプライン 1.2km
 農道 53.3km

主な構成員

農業者、自治会、農家組合
 富田小学校、土地改良区

交付金 約61.4百万円 (H29)

農地維持支払
 資源向上支払 (共同、長寿命化)

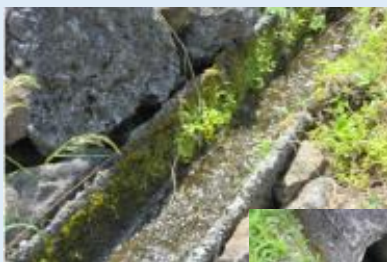
とみたのうちかんきょうほぜんきょうぎかい

富田農地環境保全協議会 (福井県大野市)

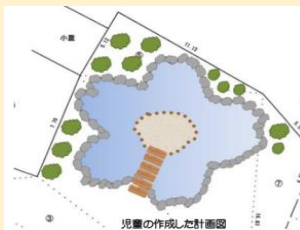
- ❖ 大野市東部に位置し、一級河川九頭竜川と真名川に挟まれた稲作を中心とした農村地域である。農業用水は、北陸電力の発電に使用した水を利用しており、豊富で新鮮な水が配水されている。
- ❖ 土地改良事業で造成した農業用施設等の保安全管理活動を地域の共同作業で取り組んだことにより、地域内の交流が活発化し、集落の機能強化や住民間のつながりが強くなった。
- ❖ 富田小学校と連携したビオトープの造成や環境学習会を実施したことにより、生きた学習の場・交流の場を持つことができ、自然環境の大切さを伝えることができた。

地域の状況

❖ 昭和48年～53年にかけてほ場整備を実施後、平成6年～16年には大型化された営農形態に合わせ、用排水路、暗渠排水等の整備を実施。しかし、支線用排水路の末端部分については、平成の土地改良事業の整備対象外とした箇所も多く、これらは施設の老朽化が進んでおり、長寿命化の取組が求められていた。



取組内容



❖ 学校教育と連携し、児童たちが主体となってビオトープを造成。

❖ 施設の補修活動では、専門家による機能診断と補修工法講習を行い、



取組の効果

- ❖ 用排水路の機能保全 (長寿命化)、農村環境の向上
- ❖ 集落機能の強化・人と人との繋がりの場が増加
- ❖ 生態系保全・環境保全への関心や理解が向上
- ❖ 永続的に活動できる生きた学習の場や住民交流の場の確保が実現

【今後の展開】

❖ 農業施設の多面的機能を実感する取組みと維持管理作業・施設の長寿命化を実施することで、農業施設が大切な社会資本として機能が発揮できるように、今後も、自立的・継続的に取組み、元気で明るい地域づくりを目指して行きたい。

【地区概要】		
取組面積	354.6ha	(田 354.6ha)
資源量	開水路	160.4km
	パイプライン	14.6km
	農道	50.5km

いけだのさと みずとつちをまもるかい

池田の郷 水と土を守る会 (福井県池田町)

- ❖ 本地域は、福井県の東南部に位置する池田町の水田地帯であり、町全域で多面的機能支払に取り組んでいる。
- ❖ 本制度により、生ゴミ等の有機性廃棄物(資源)を回収。回収された生ゴミ等は、堆肥化され地域で活用している。
- ❖ 住民の資源循環に関する意識が高まり、地域内の資源循環量や化学肥料等を可能な限り使わない農業の取組面積が拡大している。

主な構成員 自治会、NPO法人等

交付金 約31百万円 (H29)
 農地維持支払
 資源向上支払 (共同、長寿命化)

地域の状況

- ❖ 本地域は、福井県の東南部に位置する水田地帯であり、町全域を活動の対象としている。
- ❖ 町では、地域の農業や自然環境を守りながら、地域のコミュニティの力を活かしたまちづくりと経済活性化を推進するため、化学肥料や農薬を可能な限り使わない農業の実践等、様々な施策を推進。
- ❖ これらの推進には、行政と住民との一体的な運動の展開が必要とされていた。



取組内容

- ❖ 本活動組織は、町内の生ゴミ等の有機性廃棄物(資源)を回収。
- ❖ 回収された生ゴミ等は、堆肥化され地域で活用されることによって土づくりを行い、化学肥料等を可能な限り使わない農業の実践を後押し。



構成員であるNPO法人によって資源を回収



生ゴミ等を活用した堆肥づくり

取組の効果

- ❖ 生ゴミ回収の活動を継続的に取り組むことで、住民の資源循環に関する意識が高まり、資源循環量が増大。

食品資源(生ゴミ)回収量	
H21	80 ^ト → H26 89 ^ト
生ゴミの回収による肥料の生産量	
H21	186 ^ト → H26 185 ^ト
- ❖ 生ゴミから製造した堆肥を有効活用することで、化学肥料等を可能な限り使わない農業の取組面積が拡大。

特別栽培米の取組面積が大幅増加	
H18	90ha → H27 185ha
- ❖ ブランド化により、町直営店舗で有利販売。



町独自の認証米制度の現地審査会の様子



直売所の様子

【地区概要】

取組面積	38.3 ha
	(田37.6 ha・畑0.7 ha)
資源量	開水路 11.3 km
	パイプライン 2.8 km
	農道 5.7 km
	ため池 1箇所

主な構成員

農業者・自治会・壮年会・婦人会
老人会・子供会等
交付金 約3.4百万円 (H29)
農地維持支払
資源向上支払 (共同、長寿命化)

ぐりーん かしづ

グリーン樫津 (福井県越前町)

- ❖ 本地域は、中山間地域にあり、農家の高齢化や混住化が進む中で、本交付金を活用し、集落全体で草刈り等の農地維持活動や環境保全活動に努めている。
- ❖ 特に、混住化した農村集落の活性化を図るうえで、次世代を担う子供たちに昔ながらの田植えや稲刈り、はさ掛け体制などの農業体制をさせて、自然観察会などで環境保全に親しむ活動に積極的に取り組んでいる。
- ❖ その中で、平成20年度から始めた、黒、白、黄色などの葉色の变化する稲で絵柄を描く「田んぼアート」の取組みは、県内はもとより全国的な交流にまで発展し、地域の活性化に繋がっている。

地域の状況

- ❖ 中山間地域にある本地域は、農業者の高齢化や混住化が進行。
- ❖ 混住化した農村集落の活性化を図るため農業体験や自然観察会等、環境保全に親しむ活動を開始。



伝統農法の継承
(稲刈り・はさ掛け体験)

取組内容

- ❖ 地域住民や地元小学生による田んぼアートの田植え体験やアート観察会を実施。
秋には収穫祭として稲刈り体験と伝統的農法である「はさ掛け」を実施。
- ❖ 有識者を招き、地元の子供を対象に田んぼの生き物調査を実施。



田んぼアート田植え体験 (今年度で8回目の取組み)



田んぼの生き者調査

取組の効果

- ❖ 活動は広く知られるようになり、県内外の田んぼアートの見本となっている。
多くの団体との交流と活動の定着により地域の団結力、活性化に繋がっている。

【田んぼアート参加者数】

H23年度：280人 ⇒ H27年度：300人

【田んぼアート来客数】

H23年度：1,000人 ⇒ H27年度：1,600人



干支のひつじを表現 (H27年度)

H29年度は“2017全国田んぼアートサミットin越前町”が開催される

取組面積 21.2 ha
(田21.2 ha)

資源量 開水路 5.4 km
パイプライン 1.2 km
農道 2.6 km

主な構成員
農業者・自治会・婦人会・子供会等
交付金 約1.9百万円 (H29)
農地維持支払
資源向上支払 (共同、長寿命化)

ふわりかい

美浜町広域協定 風和里会 (福井県美浜町)

- ❖ 美浜町広域協定は、嶺南地域に位置する美浜町の全域を対象として、平成27年度に改組した広域組織で、当組織の構成団体「風和里会」は、町中心部に位置し、JR美浜駅の立地集落である。
- ❖ 立地条件を活かし、町内外の住民・来訪者が多く往来する箇所へ地域活性化策としてコスモスの作付や水路への竹プランターの設置など、景観形成活動に積極的に取り組み。
- ❖ 先進地視察を通じて新たな取組を模索しているとともに、様々な目線で取り組みを評価・改善するために役員会には女性も必ず参加することとしているなど、より良き地域となるよう柔軟な活動展開を実践。

幅広い目線での活動

- ❖ 地域活動の計画や評価等に女性が積極的に参加することで、幅広い目線の意見を取組内容に反映。



役員会 (毎回、女性が2名以上参加)

- ❖ 先進地への視察研修や他地域からの視察受入を通して、積極的に情報を収集



他県からの視察対応状況

取組内容

- ❖ 「地域資源×全戸」による地域活性化に向けた取組み。
・ 用水路への竹プランターの設置

【先進地視察で学んだ取組を取り入れ】



- ❖ 休耕田を利用したコスモスの植栽とサツマイモの定植。



今や、地域の名物として町外から写真愛好家が訪れるコスモス園

- ❖ 排水路での生きもの調査を実施



子供たちが大活躍!

取組の効果

- ❖ 竹プランターの製作やサツマイモの定植など、女性や子供が多く参加できる活動を地域ぐるみで行なったことで、地域交流の場となり、集落内の連携が強まっている。
- ❖ 婦人会の意見を取り入れた、多様な植栽活動により、豊かな景観づくりが進められている。



竹プランターの製作状況 毎年恒例!サツマイモ掘り

- ❖ 平成27年度に広域組織化したことを受け集落内の結びつきの強化は元より、他地域との連携も視野に一層活発な活動を展開していく。



生態系保全に特化した多様な取組み

山間農業地域

うつくしい とりはま を つくるかい

若狭町農地水広域協定 美しい鳥浜を創る会（福井県若狭町）

- ❖ 平成17年に三方五湖がラムサール条約の指定湿地に登録されたことを契機に、地域では従来の自然生態系を守っていかねばならないという気運が高まった。本交付金は地域環境の向上のための活動も実施できることから、地域活性化のためにも区民一体となって積極的に取り組むこととした。
- ❖ 組織全体での環境整備活動に加え、集落の各団体毎に役割を分担し、生態系保全活動に力を入れながら様々な活動を実施している。
- ❖ 各種団体の連携強化や地域の活性化が図られてきており、フナ・コイ等の在来魚の増加等、生態系保全活動の目に見える効果を表れてきている。

【地区概要】

取組面積 68.4 ha
 (田66.3 ha・畑2.1 ha)

資源量 開水路 6.3 km
 パイプライン 5.4 km
 農道 5.4 km

主な構成員

農業者・自治会・女性の会・長寿会
 子供育成会・青壮年会・漁協等

交付金 約5.8百万円（H29）
 農地維持支払
 資源向上支払（共同、長寿命化）

地域の状況

- ❖ 三方湖に流れ込む鱒（はす）川の下流域に位置する水田地域。
- ❖ ほ場整備は完了しているものの、農業者の高齢化や減少、米価下落等による農業者離れにより、農業用施設の維持管理が低下。
- ❖ 外来生物の増加により、在来の自然環境が脅かされ、生態系保全に対する住民意識が向上。



「生態系保全の取組み」「活動の組織体制の構築」が必要と考えた。



捕獲された外来生物（ブラックバス）

取組内容



組織は主導し、住民一斉参加で環境整備活動を実施



水田魚道の設置及び観察会の実施



在来魚育成田で育った稚魚を放流



冬水田んぼ（水張り田）により生物生息環境を提供

取組の効果

【水田魚道の設置状況】

設置箇所
 H19年度：0箇所 ⇒ H27年度：2箇所

【魚道調査結果】

H26年度：フナ・コイ・ナマズ 3,188尾
 H27年度：フナ・コイ 4,281尾

【冬水田んぼの実施状況】

取組面積
 H19年度：0ha ⇒ H27年度：2ha（毎年度）

【在来魚育成田での稚魚の育成・放流】

フナ・コイ
 H26年度：1,870尾
 H27年度：3,620尾



里山国際会議の様子（H25年度）

【地区概要】

取組面積 150.6 ha
(田 150.6 ha)

資源量 開水路 8.7 km
パイプライン 21.8km
農道 17.4km

主な構成員

農業者団体 1組織
非農業者団体 16組織
(自治会、改良区等)

交付金 約12.6百万円 (H29)
農地維持支払
資源向上支払 (共同、長寿命化)

まつなががわりゆういき の かんきょう を よくするかい

若狭おばま農地環境保全広域協定 松永川流域の環境を良くする会 (福井県小浜市)

- ❖ 当該組織は、小浜市東部に位置する、一級河川北川水系松永川の流域地域 (9集落) であり、土地改良区、生産組合が中心となって活動を行っている。
- ❖ 当地区は、農家のほとんどが兼業農家であり、高齢化・後継者不足による農業離れの不安を抱えながらも、大区画ほ場整備事業の実施を契機として、将来にわたる農業の安定経営及び農村振興に努めている。
- ❖ ほ場整備事業で造成した環境保全施設の維持管理に付いて、持続性をもって適正に行っていくため、地元企業と連携した体制の整備を図っている。

地域の状況

- ❖ 大区画のほ場整備事業を実施し、将来にわたる農業の安定経営及び農村振興に努めている。



区画整備



環境保全施設
(水田魚道等)

- ❖ ほ場整備事業により新たに造成した農業用施設や環境保全施設の維持管理について、長期計画をもって地域全体で取り組んでいくことの意識付けが必要と認識。

取組内容



老人会・婦人会等による景観形成活動の展開

- ❖ 農業者以外も、地域の農業用施設を身近に感じてもらえるよう、水路法面等に景観植物を植栽。



国と共に生き物調査を実施

- ❖ 環境保全施設の維持管理に関し、北陸農政局と地元が協力し検討会を開催。また、管理体制の強化を目指し地元企業との連携を強化。

取組の効果

- ❖ 地域内外の各団体との連携による施設の管理体制を確立するとともに、この組織体制を活かし、地域活性化への取り組みを実施。



地元企業や学校・保育園を協力を得ながら実施した、親子参加による環境学習会

- ❖ 現在は、地元企業と連携した、田植え・稲刈り等を実施。
 今後は、気軽に参加できるイベント等を開催し、これらの活動を通じ地域コミュニティーを更に高めて生きたい。

取組面積	194.4 ha
	(田193.9 ha・畑0.5ha)
資源量	開水路 35.6 km
	パイプライン 23.6 km
	農道 38.1 km
	ため池 7箇所

主な構成員

- 農業者・自治会・生産組合
- 青年会・小学校PTA・土地改良区
- 交付金 約17.2百万円 (H29)
- 農地維持支払
- 資源向上支払 (共同、長寿命化)

みやがわ ぐりーんねっとわーく

若狭おばま農地環境保全広域協定 (一社) 宮川グリーンネットワーク (福井県小浜市)

- ❖ 本地域は、小浜市の東端に位置し、平成9年度から大区画ほ場整備を行い、農地の利用集積を進め、4つの生産組織を中心に営農を展開。農業者の高齢化等により、水路等の維持管理の負担増加等から、生産組織の規模拡大が困難な状況にあった。このため、地域の共同活動で水路等の維持管理を行う体制を整備。これにより、生産組織の水路等の維持管理に係る作業時間が年間約27時間/ha軽減。景観作物として栽培したヒマワリを緑肥化し、特別栽培米の生産等も開始。
- ❖ 平成27年度からは、4つの生産組織が合併し株式会社化。特別栽培米の規模拡大や小学校・農家レストランとの契約販売、園芸作物の導入等、多角経営を展開している。

地域の状況

- ❖ 大規模ほ場整備により汎用化。担い手への農地利用集積を実施。
直播栽培や大型機械の導入で低コスト化を促進。
- ❖ 一方、高齢化により農業者が減少し、水路・農道等の維持管理、獣害対策等が課題となり、更なる規模拡大が困難。



取組内容

- ❖ 担い手の負担軽減のため、水路の泥上げ草刈りなどの維持管理を農業者以外を含む地域ぐるみで行う体制を整備。
- ❖ また、農地を保全し利用集積が可能となるよう、獣害対策も地域共同で実施し、活動を強化。
- ❖ 景観植物として栽培を始めたヒマワリを特別栽培米の緑肥として活用し、農産物の地域ブランド化を推進。



ヒマワリ緑肥による特別栽培米



獣害柵の維持管理

取組の効果

【生産組織の維持管理負担の軽減】

労働時間	27時間/ha
維持管理コスト	2万円/ha/年

【生産組織の農地利用集積】

集積率・集積面積	
H18年度	48%・89ha
H28年度	74%・143ha

【特別栽培米の取組拡大等】

特別栽培米の面積の増加、小学校・農家レストランとの契約販売、トマト等の園芸作物の導入等の多角経営を展開。



農家レストランとの契約販売



ふるさと納税の商品化